



〒975-0031
福島県南相馬市原町区錦町一丁目 30 番地
TEL:(0244)26-1315
FAX:(0244)26-1318
E-mail:sousou.kyouiku@pref.fukushima.lg.jp

語り部から聞く震災「ふるさととの今と未来」 (7/9)

南相馬市立原町第三中学校

「自分の命を守る」～語り部が伝えた震災の教訓～



福島県では、児童生徒が他者の心や「ふるさと福島」を思い、未来の復興を支える人材へと成長することを願い、豊かな心を醸成するワークショップ「ふるさととの今と未来」を実施しています。

今回は、南相馬市立原町第三中学校の1年生が、語り部の新川智恵子さんから「自分の命を守るための教訓」を聴き、子どもたち自身に生まれた新たな想いを十七字で表現しました。



新川さんは、震災当時、激しい津波の被害を受けた浪江町請戸地区で被災されました。緊迫した状況下での避難経験をもとに、新川さんはあの日の一瞬一瞬を振り返りながら、『何よりもまず、自分の命を最優先に守ってほしい』と力強く子どもたちに訴えかけました。新川さんの体験を真剣に聴く子どもたちの姿から、震災を経験していない世代だからこそ、語り継いでいくことの大切さを実感しました。

子どもたちの感想



多くの人が亡くなったことを忘れてはいけないし、避難が大事だと分かった。

自然災害はいつ起きるかわからないから、起きる前に準備したり、起きてもいいように対策したりしたい。

大人でもパニックになったりする。震災の時にこうすればよかったのにと後悔のないような行動をとりたい。

未来の人にも伝えて記憶に残るようにすることが大切だと思った。

【新川さん(語り部)の思い】

子どもたちに何か一つでも伝えたいという思いで語り部を続けています。
毎回「伝わっただろうか」という不安は尽きませんが、まずは震災に興味をもってもらうことが何より大切だと思い活動を続けています。

【校長先生の思い】

震災を体験していない子どもたちですが、地域の具体的なお話のおかげで、身近なこととして捉えられました。
将来、南相馬を離れることがあっても、ここでの学びを胸に、それぞれの場所でリーダーとして活躍してくれることを期待しています。



震災の教訓を知ることはもちろん大切です。しかしそれ以上に、語り部の生の声に触れることで、子どもたちが「自分たちの身近にいる大人たちは、震災という大きな困難を乗り越えてきた力強い存在なのだ」と気づききっかけになれば嬉しく思います。子どもたちの十七字の作品も今から楽しみです！

